

D

コアになる  
程若い人が  
入りにくくなる

組織に血を入  
れかえようという  
意識が乏しい

地域コミュニティ  
においては  
次の担っている  
人数が少ない

ボランティア活動  
は一部の人がする  
(キツい人)という  
イメージ

ゲートキーパーを育てる  
講習会を

潜在する人の掘り  
起こしが出来て  
いない

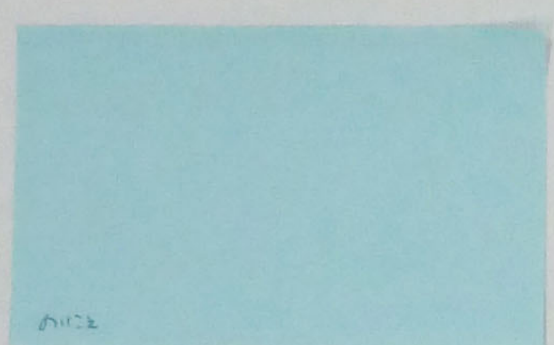
活動の周知  
と募集がおろ  
そか

若く世代が入ることで  
環境が良くなる  
(意見と採用、サポート  
若い人の)

ポイントがわかりにくい  
為活動の方向性  
見にくい

サポート体制  
(→ on line 等)

入り方がよくわからない  
(人伝人)  
→ 発信をわかりやすく



若い人の興味を  
ひくような活動

紙ばかりをする組織  
↓  
スクリーンで大きく  
1人でも出来るようにした。

若者の『やりたいこと』を  
サポートできる組織に



ライン等の書き込みはあつたので注意

SNSにより人材不足の解消に期待も

柔軟さが求められた

コロナを正しく恐れる知識を啓発して

福井空しへの出来事を絵に書いた人がいてそれを紙芝居にした環境運動の場がない

紙芝居も大きなスクリーンでコロナの中にも出来るはず

会議・講演会等の開催が難しい為情報不足が危ぶまれる

ここからはオンラインとリアルハイブリッド活用もできる

新たなコミュニティ(オンライン)の可能性

オンライン(飲み会)の場...  
→ 現地に来たい! (では?)

オンラインが進んだ(飲み会)

。 コロナ禍での組織の新しい在り方

不用不急のみなおしになった

。 見直し

今の体制を見直すことができる

県外にいても会議に参加する

仮りの場が広がる仕組みを強く戻す!!

逆に議論が白熱することもあるから